

研 修 報 告

会 議 の 名 称	第 6 回玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会
開 催 日 時	平成 2 8 年 7 月 1 1 日 (月) 1 3 時 0 0 分 ~
開 催 場 所	成田市下総みどり学園 西棟 2 階 多目的スペース
出 席 者	<p>【出席委員】 小松与士宏 中村 仁樹 小松崎由美子 遠藤 康子 宮本真由美 額賀 博 大山 徳 圓尾 康子 羽鳥 文雄 田上 義明 亀井 優 菊地 和夫 山口 淳 戸田 大我</p> <p>【欠席委員】 石塚 匡巳 山崎美奈子 瀬畑 誠 田山 憲一 小山田香代 久保田浩一 陽美美由紀 長谷川美智子 箱田 俊男 小林 文雄 塚本 繁雄 林 憲昭 笹目 賢一 園部 文夫 田中 周 鶴町 文男 関 四郎 藤田 泰正 大和田智弘 戸田 見成 大槻 良明 荒井 敦 小暮 真一</p> <p>【事務局】 長谷川正典 石田 進 中村 均 比気 龍司 植田 薫 田山 伸一 外之内信浩 戸塚 聡 田村 直弥</p>
内 容	・ 先進校視察
会 議 資 料	別 紙 (会議次第、 他)
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

【開会行事】

○校長あいさつ（下総小学校・下総中学校 高山勇 校長）

○成田市教育長あいさつ（成田市 関川義雄 教育長）

○日程説明

【清掃活動見学】

小学1年生から中学3年生までの縦割り班による清掃活動を見学

【授業・施設・スクールバス見学】

2グループに分かれ、授業・施設・スクールバスでの下校の様子を見学

【下総みどり学園概要説明・質疑応答】

下総み まず、下総みどり学園という名称は、通称名となっています。下総小学校と下総中学校の2つが1つになっている形です。私は下総中学校の校長となっていますが、辞令の中で「兼ねて下総小学校長に補する」という一文を入れてもらっています。なので、小学校の校長を兼ねている形になります。副校長は小学校籍ですが、中学校の副校長を兼ねるという辞令をもらっています。校長、副校長がおり、小学校籍の教頭が1人、中学校籍の教頭が1人となり、管理職4人の体制で行っています。

次に開校後の経緯について、説明します。成田市では、だいぶ前から小中連携を中学校単位で行っております。平成19年度には中学校単位で研究を推進していく研究組織が立ち上げられています。平成20年度には学校適正配置の報告書が出されて、下総地区の4つの小学校はすべきという報告がされています。これに対して、当時は小中一貫教育について、国でもしっかりした定義づけがされておりましたので、成田市では小中連携教育の中でも特に進んだものを一貫教育、9年間途切れることのない教育を行うという定義をしております。ただ、小中一貫教育を行うことができる条件に4つが挙げられました。まず、中学校区内の小学校が1校であること。学校規模が1000人を超えると、1つの学校として厳しいだろうということ。また、地域からの合意、理解があること。小中学校が同じ敷地内にあること。この4つの条件が揃っているところが下総となっています。下総地区には、4つ

の小学校がありました。まず平成18年3月に下総町と大栄町が成田市に合併されました。そして適正配置の報告書では、小学校は1つにすべきということが示されました。その後、住民説明を繰り返し、先進地や先進校の視察を重ね、平成22年2月に区長会が同意書を提出し、正式に下総地区の4つの小学校が統合されることが平成22年2月に決定しました。しかし、一貫についてはまだまだ検討が必要だろうということで、小中連携会議が市役所内に作られました。住民説明を繰り返し、先進地・先進校に視察へ行き、平成23年9月には小中連携推進委員会（地域・保護者・学校・事務局）の中で一貫にすることが決定しました。それから開校までが2年半です。小中連携推進委員会は、学校職員と地域住民による組織であり、専門部会も立ち上げました。学校経営部会が小中学校の校長5人と区長代表、健全育成の会長の7人で構成し、2年間で20回程度行ったかと思います。教育課程部会は各学校の教務主任が集まりました。生徒指導部会は各学校の生徒指導主事。行事・交流活動部会は各学校の研究主任。地域連携部会は各学校のPTA会長。それぞれ専門委員会を立ち上げ、それぞれ活動し、これをまとめた推進委員会という会議を2月に1回程度行いました。統合前の下総中学校の敷地は、非常に広大な敷地でした。小学校の校舎と敷地を中学校のグラウンドに造ろうとなり、道路を挟んだ土地を新たに買ってもらい、中学校のグラウンドを整備して開校しました。

本校の教育の概要について説明したいと思います。下総みどり学園は、下総地区4つの小学校が統合し、下総中学校と同じ敷地内で生活している学校です。1年生から9年生まで一貫した教育を行っています。統合前の4つの小学校の児童数は、小御門小学校が100人強、滑河小学校と高岡小学校は約60名の規模です。名木小学校は30名前後。名木小学校では学年1人といったこともありますので、統合はやむをえないということとなりました。現在は小学校、中学校となっていますが、平成29年4月からは義務教育学校となります。

スクールバスは全部で6ルートあります。このうち2ルートを大型バス、その他の4ルートをマイクロバスが走っています。小学校は260人強の児童がいます。そのうち約9割がバス登校となっています。学校の周りにあまり家がありませんので、歩いてくる子どもはごく少数しかいません。1回ではバスに乗り切れません。登校は、まず5年生と6年生を乗せて7時前後に到着します。その後、同じバスが同じルートを通り、1年生から4年生までを乗せて7時40分前後に到着します。帰りは、その逆の流れになります。なので、本校は一斉下校ができない状況になっています。

児童生徒数について説明します。各学年が40人強となっています。なので、全学年2クラスです。また、1年生から4年生までを前期ブロック、5年生から7年生を中期ブロック、8年生と9年生を後期ブロックとしています。特別支援学級は、小学校2クラス、中学校3クラスとなっています。4年生

を前期のリーダーとして、7年生を中期のリーダーとして、9年生は学校全体のリーダーとして育てていこうとしている学校です。また、5年生から教科担任制を実施しています。教科毎に先生が代わるため、5年生からは50分授業で行っています。また、算数や英語などでTTによる授業を行っています。T1は基本的に教科専門の教員が務め、担任の教員がT2として入る形が多くなっています。また、中学校の教員が教科担任として、専門教科の教員のみでも授業を行っている。開校後1年目、2年目については、ほとんどの教科で専門教科の免許を持った教員が小学校5年生、6年生を教えることができました。恵まれた授業が5年生、6年生にできているのではないかと思います。成績は全体的にそれほど良くはありませんでしたが、5年生、6年生が中学生になった後の成績は市の平均より大幅に上回りました。やはり教科担任制で授業を行った成果が出てきているのではないかと考えております。また、1～4年生までは45分授業、5～9年生までは50分授業となり、基本的にはノーチャイムで行っています。ただし、掃除の時間など、1日に数回だけチャイムを鳴らしています。

施設については、既存の中学校校舎に新しく小学校校舎を付け足した形になっています。中学校のグラウンドが低い位置にあったため、既存校舎の1階から少し上がり、新設校舎の2階に繋がっています。職員室は普通教室3教室分の広いスペースになっています。小学校と中学校で分かれているわけではなく、前期ブロック、中期ブロック、後期ブロック、特別支援・養護教諭・非常勤といったように分かれています。職員室ではマイクを使用して職員会議を行います。

本年度の学校経営方針は複数ありますが、6番の項目には「9年間の連続した学び」「効果的な異学年交流（学習）」「異なる子ども観を有する教員の協力体制」とあります。「そういったものを打破し、私たちが新しい文化をつくるという気概を全職員が持って取り組んでいこう」と常に全職員に呼びかけています。

学校教育目標は、統合前の推進委員会で決定していただいたものです。下総地区は、非常に誠実な方が多く、引っ込み思案なところがある地域性です。そういった良さを生かし、地域に貢献する子を輩出していこうという目標となっています。今年重点目標は、上から知・徳・体・地域とのつながりという4つの目標となっています。

私は校長として1年間、小中一貫となる前の下総中学校におりました。当時の中学1、2年生は、翌年度から小中一貫となったため8、9年生となりました。子ども達は本当に変わりました。今まで学年の中で全く発言ができなかった子が、小中一貫になり、小さい子から無条件に慕われました。そうすると、表情が一変しました。そういった子の中には、学校全体のリーダーになった子もいます。人から頼られること、また人に対していろいろなことを教えなくてはならない立場になった時、人は変われるということを実感しま

した。そういった異学年交流をできるだけ多く行い、子ども達の力を伸ばしていきたいと考えています。

4年生の活躍について、説明させていただきます。他の小学校では6年生が行うようなことを本校では4年生が行っています。例えば、なかよし集会は、小学校1年生を前期ブロックで歓迎しようという行事です。4年生が教員の力を借りながらですが、1年生が楽しめるような内容を企画し、運営しています。2年生～4年生が校歌を1年生に聴かせたり、ゲームなどを行いました。また、1年生はランドセルから道具を出すことも時間がかかります。朝は1年生～4年生と一緒にスクールバスに乗ってきますので、4年生が1年生の教室で支度を手伝っています。支度が終わった子には勉強も教えています。これは4月終わりまで行います。こういった立場を与えれば、子ども達も一生懸命がんばるところが見られます。前期ブロックのまとめとして、1月に1/2成人式を行います。卒業式と同じように1/2成人証書といったものを渡しています。また、4年生が中心となり、長縄大会を行っています。縄を4年生が持ち、行っています。

次に中期ブロックについて、説明させていただきます。5年生と7年生が小見川少年自然の家で合同の宿泊学習を行います。この宿泊学習は開校時から行っています。今年の7年生は、開校時の5年生です。当時の7年生、現在の9年生がリードしながら一泊二日の宿泊学習は終わったのですが、5年生は7年生の言うことを全く聞きませんでした。ウォークラリーの時はへたりこんでしまい、動かない5年生がいたり、飯盒炊飯時にも7年生の指示を無視して遊びに行ってしまう子がいました。そういった子達が7年生になり、開催場所は同じです。現在の7年生は、「2年前に先輩に連れてきてもらったので、今度は5年生を楽しませるんだ」というように、とても意欲的でした。5年生、7年生合わせて95人で行きました。ウォークラリーでは、1つの班に7年生女子が3人、5年生男子が3人。7年生男子には、5年生女子といった班構成で1年目から行っています。7年生の学年では目立たない子も、5年生と一緒に時にリーダーシップを非常に発揮していると思います。キャンプファイヤーの準備では7年生は2回目なので、5年生に指示を出していました。キャンプファイヤーも楽しみ、フォークダンスのアンコールが何回も行われました。最後には5年生が「今日は本当に楽しいキャンプファイヤーになりました。7年生のおかげです。本当に感謝しています。」ということを行い、7年生が思わず涙ぐむという感動的な行事となりました。

また、8年生誘導による健康診断があります。4月の健康診断の際に8年生が1～4年生を誘導していきます。身長や体重、視力や聴力の場所に1年生～4年生を連れていき、そこで指示を出し、記録を取って戻ってくるということを行っています。副校長が異動当初、その光景を見て、ここまできちんと中学生が小学生を指導できるのかと驚いていました。4学年いますが、私

語なく健康診断が終わります。

縦割り班による全校遠足を4月終わりに実施しています。1年生を楽しませようということで9年生が中心に企画をします。学校から40分ほど歩いたところにフレンドリーパークという公園があります。そこに清掃の縦割り班毎に歩いて行きます。行きは40分ほどですが、帰りは登り坂なので50分近くかかります。1年生は疲れてしまい9年生におんぶされている子もいます。公園には広い場所がありますので、みんなでゲームなどをします。企画をした9年生が一番楽しそうにゲームをしていました。

異学年による授業も行っています。まず、4年生と7年生による調理実習があります。下総高校のグラウンドを借りて栽培したさつまいもの調理を合同で行っています。7年生は包丁の使い方などを4年生に教えなくてはならないので、前日に家でお母さんに教えてもらったということがありました。また、本校では1年生から英語活動に取り組んでいます。6年生から7年生になる際は中学校英語に変わり、ライティングが入ってきます。スムーズに慣れない子も何人かいるので、小学校6年生に対して8年生がライティングを中心に教える合同の授業を展開しています。また、8年生が4年生を対象にブックトークを行っています。昨年度の例では、戦争に関する本を選び、4年生向けに説明をしています。図書委員による読み聞かせも行っています。低学年の児童は読み聞かせを待ち遠しく思っています。読み聞かせがしくて図書委員になる生徒もいます。8年生による職場体験学習発表会を10月の終わりくらいに行っています。職場体験を夏休みに行き、6年生と7年生へ職場毎にパワーポイントを使ってプレゼンをします。6年生と7年生は先輩が説明してくれるので、真剣に聞いています。6年生、7年生からの質問も多く出てきます。今年の8年生は2年間先輩の発表を聞いているので、充実した体験ができるのではないかと考えています。また、昨年度から全校で学び合いによる学習を行っています。子ども同士が意見を学び合う、意見を言いあうといった活動となっています。

他学年教員による授業も実施しています。今年度の場合は、7年生の数学専門の学年職員が6年生の算数の授業を行いました。こういったことも施設一体型の本校ならではだと思えます。

また、地域の方々にも積極的に支援していただいております。地域の読書ボランティア「るびなす」に読み聞かせをしていただいたり、昔の遊びについて、地域の方が学校に来て低学年に教えてくださっています。地域に神社なども多くあり、地域の祭礼で吹奏楽部が演奏をしています。7月16日にも地域の夏祭りがありますが、本校吹奏楽部の演奏が祭りの始まりの合図になっています。

卒業式は、9年生のみとなっています。卒業式では大地讃頌を5年生から歌います。とても難しい歌なので、5年生と6年生は非常に大変ですが、毎回の学活の時間に7年生と8年生が5年生と6年生の教室に行き、発声から合

唱まで指導しています。大地讃頌3部合唱で歌っており、校歌も3部合唱になっています。中学生の歌を聞かせることは、小学生にとって非常に感動的なようです。子ども達の合唱に対する意識も年々高まっているように感じます。説明に関しては、以上とさせていただきます。

事前に質問をいただいたので、それについてお答えしたいと思います。

「義務教育学校への移行に対し、小中いずれかの免許しか持っていない教員はいないのか。」という問いに対してお答えしたいと思います。千葉県の場合は、小中両方の免許を持っている職員はそんなに多くありません。本校は、小学校籍では1/3程度の教員、中学校籍ではほとんどの教員が持っています。しかし、中学校の専門教科免許を持っていれば、その教科に限って小学生を教えることができます。これを利用し、音楽、家庭科、図工については中学校専門教科の教員が教えています。義務教育学校になった場合も大きくは変わらないのではないかと思います。今のような形で中学校の方が小学校に指導に入るといった形での授業展開が多くなるかなと思います。小学校籍の教員が中学生を教えることもできないことはないですが、小学校の先生は全員が担任なので、授業時間が多くあります。なかなか中学生までは教えられないという現状です。

「部活動は何年生から行っているか」ということに対してお答えしたいと思います。部活動は5年生から行っています。しかし、下校がスクールバスということと小学校独自の大会に参加しているということがあります。この地区では、5月に陸上記録会があります。まず、5、6年生は陸上記録会に向けて練習をします。その陸上記録会が終わった後に初めて部活動を選び、中学生と一緒に約1ヶ月間活動します。7月にはミニバスケットボール大会があるので、部活動への参加を一旦止め、バスケットボールの練習に入ります。9月の体育祭終了後には、また中学生と一緒に部活動を行います。冬に綱引き大会があります。いずれの場合も小学校の大会が近くなると、部活動の参加を止め、大会に向けての練習に入ります。

制服や自転車通学は7年生、中学1年生からとなっています。6年生から7年生は中期ブロックですが、制服や自転車通学の違いが大きいのではないかと思います。しかし、教えている先生や友達はほとんど代わりませんので、中1ギャップは皆無です。7年生の担任にはギャップが無さ過ぎて緊張感が無さ過ぎるということをこぼしている教員もいます。そのようにスムーズに移行しています。